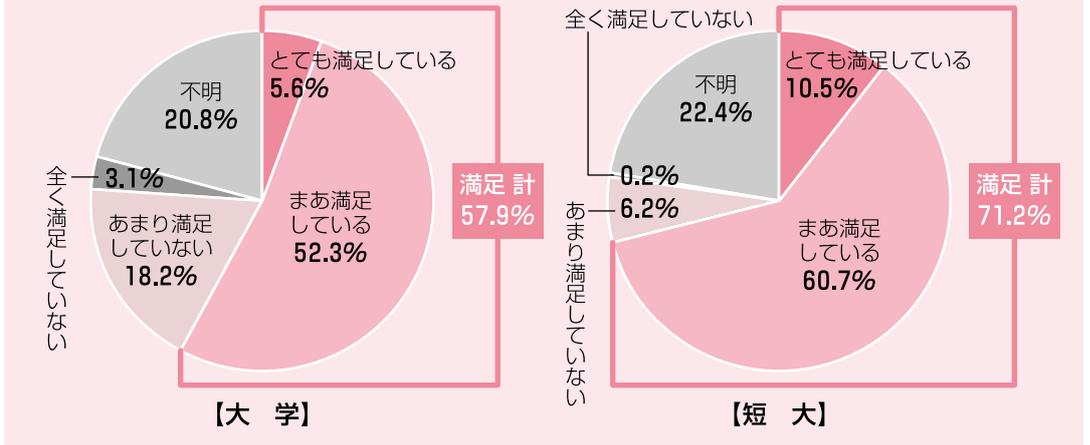


『学生生活満足度調査』を実施

学生の視点から現状を把握し、大学・短大の改善に役立てる

■大学・短大全般の満足度



調査結果に基づく学内改革を段階的かつ継続的に実施

常磐大学・常磐短期大学は、2006年9月25日から10月11日にかけて、すべての学生を対象とする「学生生活満足度調査」を実施した。この調査は、本学の現状を学生の視点から把握することによって、今後の改革・改善に役立てていこうという試み。2000年の7月に行われた調査に引き続き、今回が2回目の実施となる。

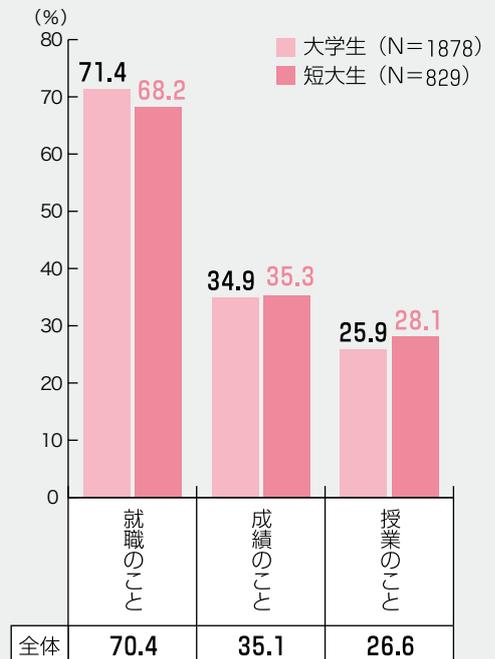
調査項目は多岐にわたり、大学・短期大学への総合的な満足度、授業・教育システムについての評価、就職・進学についての評価などソフトの分野から、図書館や学生ホールなど各施設・設備についての評価などハードの分野まで、さまざまな角度から回答を求めた。

今回の調査結果は「学年によって満足度が違っている」「教育の中身やしきみに対する学生たちの関心が高い」「学生は教員や職員とのコミュニケーションを望んでいる」といった、さまざまな課題を提起。

精査したうえで全教職員に対する報告会も実施された。今後は「全学自己点検・評価委員会」で、この調査結果を学内の改革・改善にどう結び付けるのかを検討していく方針だ。

学生に対する対応としては、不満が高い点を重点的に検討し満足度を高めるための方向を示すことが第1段階。第2段階としては、1～2年程度の短期的目標、4～5年程度の中期的目標を立て、具体的な施策を実施することでフィードバックを図る。前回の調査からは図書館の土・日開館、情報メディアセンターのパソコンのスペック向上、コンビニエンスストアの開設などが実現されてきた。今回の調査結果からも、学生のニーズに即した改善を継続的に進めていく考えだ。

■学生生活で不安に思っていることTOP3



■ 学校法人 常磐大学開学100周年記念「諸澤みよ記念館」竣工記念式典

創立者「諸澤みよ」の在りし日を偲ぶ

■ 100周年を迎え開学の精神を心に刻む

学校法人常磐大学開学100周年記念事業の一環として計画されていた「諸澤みよ記念館」の竣工記念式典が2006年12月8日に、常磐大学同窓会館・楓ホールで挙行された。

式典には、同窓会、旧職員をはじめ来賓の黒木剛司郎顧問、大谷啓治理事、宮田武雄理事他が出席。創立者・諸澤みよ先生の偉業と功績を讃え、在りし日を偲んだ。

式典では、諸澤英道理事長が諸澤みよ先生の生前のエピソードを交えて挨拶。決して恵まれた環境ではなかったみよ先生の生い立ちと、激動の時代を生き抜いた教育者としての強い信念を来賓の方々に語りかけた。

諸澤みよ先生は、1887年(明治20年)、現在の水戸市に小田木初次郎・はつの次女として生まれた。経済的には裕福な環境であったが、男尊女卑の家督制度に翻弄され、女性の経済的自立の必要性を痛感。以降、裁縫伝習所の開設を経て、1922年、水戸常磐女学校を開設した。その後、第二次世界大戦の水戸空襲で校舎を全焼してしまうなどの苦難を乗り越え、学校の発展に尽力し、1974年(昭和49年)に永眠。

「金剛石も磨かずば玉の光はそわざらん」。生涯を教育に捧げた、諸澤みよ先生の好きな言葉のひとつであった。



●「諸澤みよ記念館」竣工記念式典で挨拶をする諸澤英道理事長。(上)
●テープカットを行う黒木剛司郎顧問、諸澤英道理事長、高木勇夫学長。(左)

■ 諸澤みよ先生の記憶を留める「諸澤みよ記念館」開設



● 諸澤みよ先生

「記念館」は、みよ先生が晩年まで過ごされた旧諸澤邸の復元をテーマに、1階エントランスホールの他、1、2階に各々設けられた計4つのギャラリー等で構成されている。

エントランスホールは、光の中に記憶を封じ込め、来館者をイメージの世界に誘うという意図から、壁面を不透明な硝子で覆っている。この空間には、「みよ先生の胸像」、「道之介先生(常磐高等女学校初代校長)のレリーフ」の他、みよ先生の開学前史を収めている。ギャラリー1は、みよ先生の生涯を、映像を通して紹介している。ギャラリー2は、大正期の書齋を思わせるノスタルジックな空間の中に、諸資料、絵画などを収蔵展示している。ギャラリー3は、「常磐の原点に触れる」というコンセプトのもと、空間の半分を裁縫伝習所の復元にあて、残りの空間に、裁縫伝習所に関する様々な資料を展示している。ギャラリー4は、「現在から未来に飛翔する常磐」をイメージし、様々な手法による展示を展開している。



●「諸澤みよ記念館」外観



●大正から昭和をイメージしたノスタルジックなギャラリー2



●ギャラリー3は裁縫伝習所を復元



地域社会における 大学の役割

～産官学と地域連携、今後の方向性～

黒木 剛司郎氏 (学校法人 常磐大学 顧問)

現在、地域が直面する問題や課題は、複雑かつ多様化している。加速する高齢化や地方分権の流れが、地域社会に大きな影響を及ぼしてきているのだ。そこでいま、ひとつの可能性として地域と大学の連携が注目を集めている。大学に蓄積された知的資源を開放することで、地域を活性化しようという試みだ。こうした流れのなか、常磐大学・常磐短期大学は、どのように社会のニーズに応えるべきなのだろうか。地域と大学の連携について、学校法人常磐大学顧問であり、元・茨城大学学長の黒木剛司郎先生にお話を伺った。

「近年、話題になっている言葉に『2007年問題』があります。これは昭和22年から24年の3年間に生まれた『団塊の世代』と呼ばれる人たちが定年退職を迎えることによって、多くの問題が発生するのではないかとということ。そのなかでも確実なのは、我が国が高齢化に移行する速度が一段と加速されるということです。夏目漱石の教え子であった寺田寅彦という物理学者は、昭和9年に発表したエッセイにこんな文章を書き残しています。『子供から青年までの教育機関はあっても中年、老年の教育機関が一向にととのっていない。(中略)死ぬまで受けられる限りの教育を受けてこそ、この世に生まれてきた甲斐があるのではないかと思われる』。団塊の世代を含めて、我が国の定年退職者の多くは勤労意欲も体力もきわめて旺盛だといわれています。彼らにリカレント教育の場を与えて、高齢化社会を活性化することが緊急な課題になるのではないのでしょうか。常磐大学・常磐短期大学では、東京芝浦と水戸にサテライトキャンパスを設置して、大学教育開放の拠点とするほか、エクステンションセンターでオープンカレッジを実施するなど先端的な施策を行っています。これは、まさに寅彦さんの期待に応えるもの。これらの内容のさらなる充実を要望したいですね」

地域連携のもうひとつの形として、産官学の連

携がある。茨城大学のように理工学系の学部を持つ大学では、早くから地域企業との共同研究・開発が進められてきた。それでは、人文科学系の常磐大学・常磐短期大学は、企業や行政との、どのような連携が可能なのだろうか。

「地方行政は、国の役割との明確化が進み、自立することを求められています。それに伴い、権限や財源の移譲も行われますが、その財源をうまく運用していく必要がある。その一方地方では、合理化を目的に大規模な市町村合併を実施。これにより行政システムが巨大化し、システム自体の再構築に追われているという現状があります。このように、より高度化、複雑化する地域社会から発生する諸問題に取り組むには、学際的な立場の研究が必要で、つまり、単一の専門分野ではなく、経済・経営・金融・法律など人文科学系の学識や能力を身につけた人材が求められているということ。常磐大学・常磐短期大学の各学部スタッフや、その担当科目を見ると、このような期待に十分なものと私は考えます。すでに調印された水戸市との連携協力協定などは、まさに実践の場を与えるものでしょう。ただ、産官とより密接に連携するためには、ただ待っているだけではいけません。積極的にアピールし、情報を発信し続けることが重要になると思います」

大学全入時代を間近に控え、地域と大学の連携は、さらに重要な課題となるのではないだろうか。

Profile

くるき・こうしろう ● 1920年生まれ。東京帝国大学工学部機械工学科卒。茨城大学助教授、同大学教授を経て、1982年に同大学学長に就任。1988年に学長退官後、2000年より社団法人茨城原子力協議会理事を務め、2003年5月より同法人の会長に就任。1991年4月から2005年3月まで学校法人常磐大学理事、2005年4月より現在に至る。

幼児教育保育学科発表会

学生たちが主体となり 素晴らしいプログラムを披露

常磐短期大学『第29回・幼児教育保育学科発表会』が2006年12月26日に水戸市民会館大ホールで行われた。この発表会は、学生たちがこれまでに培った音楽や実技の成果を、公共の場で披露するイベント。学内外の来場者に見ていただくことで、授業とは違った達成感を得ることを目的としている。

プログラムは、ハンドベル・アンサンブル、1年生声楽、2年生合唱、劇、ミュージカルとバラエティー豊か。すべて実際に幼稚園や保育園で、そのまま実践できる内容に仕上がっている。

授業科目の合唱と声楽に関しては教員の指導で行われるが、それ以外のプログラムは「課題研究」の科目の中で学んだものを発表している。科目担当教員より指導を受けたのち、基本的に学生が主体となって運営する。劇に関しては、台本から演出、監督まで学生が務める。春 Semester から準備を始め、教員が関わるのは最初にヒントを与えることと、ステップに従ってアドバイスを行うだけ。予算も少ないため、衣装や大道具、小道具なども、段ボールや古着などで製作する。実際に幼稚園や保育園に就職し劇を行う際にも、この経験は大きく役に立つ内容だ。プログラムごとに20名程度のグループなので問題が起こる場合もあるが、学生たちが話し合っ、その都度、解決しているという。

この発表会は、実践力をつける以外にも、学生たちに大切な学ぶ機会を与えている。それは、一緒にプログラムを作り上げた友だち同士の連帯感だ。お互いに築き上げた信頼関係は、卒業したあとも消えることはなく、一生の思い出になる。学問を学ぶと同時に、人間としても大切なことを学ぶ絶好の機会でもある。今年は30回という大きな節目を迎える幼児教育保育学科発表会だが、さらに、意義あるものへと進化する予定だ。より良い保育者を育成するため、一段とステップアップした発表会が期待されている。



●ハンドベル・アンサンブル



●2年生合唱



●ミュージカル「サウンド オブ ミュージック」

常磐短期大学
第29回 幼児教育保育学科発表会

PROGRAM

校歌斉唱

1. ハンドベル・アンサンブル
「Music is Our Life ～僕と私の歩く道～」
2. 1年生声楽「こどもと歌おう」
3. 2年生合唱
一休憩(幕間Girls)ー
4. 劇「すてきな3人組」
5. ミュージカル
「サウンド オブ ミュージック」

相互評価実施について

上田女子短期大学との 相互評価を実施

常磐短期大学は2008年度に文部科学大臣の認証を受けた「短期大学基準協会」による認証評価を受けることを全学自己点検・評価委員会で決定した。短期大学基準協会の「短期大学評価基準」には「相互評価への取り組みに努力していること」という評価項目があり、これを受けて、短期大学自己点検・評価実施委員会では、上田女子短期大学(長野県上田市)と相互評価を実施することを承認。2007年2月19日、20日に同短大の訪問調査を受け入れた。

相互評価実施にあたり、常磐短期大学は「相互評価実施委員会(委員長・竹中治利副学長)」を設置。「相互評価実施要領」を作成してキャンパス見学、面談、質疑応答に臨んだ。

調査内容は、教育の内容、教育目標の達成度と教育の効果から、学生支援、社会活動、管理運営、財務など幅広い。この相互評価を通して、問題点を指摘しあいながら教育、研究の充実を目指していく。上田女子短期大学への訪問調査は、3月22日、23日に実施される。

常磐交換留学制度(概要は下段参照)を活用し、アメリカのカリフォルニア州立大学ノースリッジ校へ派遣されていた学生が、2006年12月25日に約4ヵ月の留学を修了して帰国した。アメリカでどのような生活をし、何を心得て帰国したのか、以下、吉崎真里子さんの留学体験を紹介する。



吉崎 真里子さん

●
国際学部
英米語学科 3年

留学は自分の世界を広げるチャンスです!

入学した当初は、英語が苦手でした。でもこのままじゃいけないと思い、1年生のときにEC (English Connections : アメリカからの交換留学生と英会話を勉強する活動) に参加。そこでアメリカで勉強したいという気持ちが強くなり、今回の留学に応募しました。2年生の春休みに行われたアメリカでの海外研修にも参加していたので、特に不安はなかったですね。どうせ自分の英語力じゃ、うまく通じなくて落ち込むことがあるのは分かってましたし(笑)。

アメリカでは、4人1部屋の寮生活を送っていました。午前中は学校で授業を受け、午後は自由時間。最初の2カ月は遊びに行く余裕もありましたが、後半の2カ月はとにかく大変でした。私は“リサーチペーパー”の授業をとっていたので、ほとんどそれにかかりっきり。この授業は、指定された歴史上の人物にまつわる本を読んで、それを要約してレポートにまとめるというもの。とても厚い本を5冊くらい読む必要があります。毎日、学校が終わってから3~4時間は図書館にこもって、それでも終わらなくて寮で午前2時頃まで机に向かう生活。辞書をたくさんひいて、泣きながら要約してました(笑)。だから完成して先生に褒めていただいたときは、本当に嬉しかったです。それから、歴史の勉強の大切さも痛感しました。中国や韓国から来た留学生と靖国神社の話題になったとき、私はあまり話すことができず情けなくて。とにかく海外の学生は、遊びも勉強も半端じゃありません。みんな夢を持っていて、それを叶えるための勉強には努力を惜しまない。とても刺激になりました。

留学を考えている皆さん、自分に自信がなくてもとにかく応募してください。TOEFLの点数なんて頑張ればなんとかなります。自分の世界を広げるチャンスですよ!



●ノースリッジ校でキャンパスライフを楽しむ吉崎さん。観光ではシアトルへ!

国際交流語学学習センター(Q棟1階)では、国際交流と語学学習を支援している。わからないことは、センタースタッフに気軽に相談してほしい。

■ 常磐交換留学制度：派遣留学

常磐大学では、アメリカのカリフォルニア州立大学ノースリッジ校とフレズノ校の2校と協定を結び、相互に学生を派遣、受入れをしている。毎年2~4名の常磐大生が9月から12月までの4カ月間、学費・生活費・渡航費全額免除となる奨学金を受け、提携校で学んでいる。

- 奨学金として学費・生活費・渡航費全額免除
- 提携校での取得単位は30単位まで単位認定可能
- 派遣留学期間は、在学期間として加算されるため、4年間での卒業も可能

■ 短期語学研修プログラム

常磐大学・常磐短期大学における短期語学研修プログラムは、① 国際学部の英語研修 (アメリカ・カリフォルニア大学アーバイン校) と ② 中国語研修 (中国・北京第二外国語学院)、③ 短期大学の英語研修 (イギリス・チチェスターカレッジ) で毎年、春休みを利用して実施。全プログラムとも全学部・短大の学生が参加することができ、単位認定もされるため、多くの学生が参加している。

* 短期語学研修の様子は国際交流語学学習センターHP (<http://www.tokiwa.ac.jp/intlco/index.html>) に詳しく掲載している。

●キャリアデザイン講座3『常磐大学OBトークショー』開催

プロ野球界で、いま注目を集める
常磐大学OBの2投手が来校！

2006年12月20日、学生支援センターキャリア支援担当が主催するキャリアデザイン講座3『常磐大学OBトークショー』が開催された。ゲストとしてお招きしたのは、西武ライオンズに所属する小野寺力投手と阪神タイガースに所属する久保田智之投手。ともに常磐大学野球部OBで、いま注目のプロ野球選手だ。トークショーのテーマは「夢を実現するために『私と野球』プロとしての心構え」。会場となった常磐大学H棟には一般の来場者や学生たち、およそ400人が詰めかけ、両選手の人気を示していた。

トークショーに先立ち高木勇夫学長が「こういう卒業生がいることを、大変誇りに思っている。在学生の皆さんも、お2人の活躍をお手本として、自分のキャリアをデザインしてほしい」と語った。

久保田投手が「野球を始めた小学校3年生のころから投手をやりたいかったが、高校までは捕手。大学に入って、やっと投手に専念できた」と語るように、大学時代から両選手は同じポジションで競い合うライバル。「しかし、野球に限らず社会に出ても、近くにライバルがいることは自分を伸ばす最高の環境」と小野寺投手は大学時代を振り返った。

両選手とも、ここまでの道程は順風満帆ではなかった。小野寺投手は「プロに入ってすぐ左ひざを骨折。2年間ほど野球ができなかったが、辛いときほど周りが見える。そして周りの力が支えになった」と怪我から復帰した経緯を語った。また、昨シーズン右手を骨折した久保田投手も「投げられるまでの2カ月間、迷惑をかけてしまったという思いでいっぱいだった。ただ1軍のベンチを離れても応援してくれるファンがいる。その声援に支えられた」と当時の心境を話していた。



トークショーの後のサイン会も大盛況



小野寺投手(中央)と久保田投手(右)は、ひさしぶりの対面だ

『夢を実現するために』へのメッセージとして、小野寺投手は「夢を実現させるためには、それに向かって努力すること。叶うかどうかはわからないが、やらずに後悔するよりやってみることが大事」と檄を飛ばし、久保田投手は「辛いことがあっても夢があれば頑張れる。続けていれば必ず結果は出るもの」と、後輩たちにエールを送った。

O.B PROFILE



西武ライオンズ
小野寺 力 投手
(おのでら・ちから)

埼玉県立鴻巣高校を経て、常磐大学に入学。2002年のドラフトで指名され、西武ライオンズに入団、背番号14。右投げ右打ちのピッチャーで、長身から投げ下ろすMAX152キロの直球とフォークボールが武器。昨シーズンは29セーブを挙げる。



阪神タイガース
久保田 智之 投手
(くぼた・ともゆき)

埼玉県立滑川高校を経て、常磐大学に入学。2002年のドラフトで指名され、阪神タイガースに入団、背番号30。右投げ右打ちのピッチャーで、150キロ台のストレートと切れ味抜群のスライダーが武器。一昨年は27セーブを挙げチーム優勝に貢献。

● 2006年度の就職状況について

景気回復、団塊世代の大量退職による人員構成の是正等により、企業の採用意欲は高まりをみせ、学生を取り巻く環境は好転している。しかし一方では、優秀な学生を求め、「質」を重視する傾向に変わりがなく、引き続き厳しい就職環境に変わりはない。

本学においても企業からの求人数・求人数は年々増加している。これに対し学生も積極的に企業訪問等就職活動を行っており、その結果、就職内定者数も増加、就職内定率は昨年の同時期に比べ上昇している。特にコミュニティ振興学部は、前年同時期比で内定率が10ポイント上昇している。また、短期大学も健闘している。しかし、一部、未だに内定を得られない学生もあり、また、学部・学科によりかなりのばらつきがあることも否定できない。卒業時までになんとか就職できるよう学生指導を強化し、昨年度以上の就職率を達成すべく努力中である。

● 2007年度就職状況について

求人状況は、厳選採用に変わりはなく、前年と同程度の状況であり、売り手市場に変化はない。大学4年生・短大2年生（2008年3月卒業見込者）は、現在、企業訪問、ナビによるエントリーなど、就職活動を本格化している状況である。キャリア支援担当では、さまざまな支援プログラムを用意、学生の就職活動をサポートしており、積極的な参加を期待している。

◎ 学内会社説明会 [大学4年/短大2年（2008年3月卒業見込者）対象]

企業ごとにブースを設け、学生が興味のある企業のブースを訪問し、人事担当者から会社や仕事内容についての説明を個別に受けることが出来る。また、各企業独自の説明会や試験の日程などの重要な情報も得られる。4月から月1回の開催予定。

また、4月からは、1・2年生を対象に、将来のスムーズな就職活動を行うことが出来ることを目的とした「職務適性テスト」「講義（資格取得・業界を知る）」等を多数企画している。（詳細は <http://www.tokiwa.ac.jp/~career/index.html> 参照）

主な内定先（2006年度卒業生）

（常磐大学）

- 株式会社常陽銀行
- 茨城県信用組合
- 野村證券株式会社
- 株式会社日立製作所日立事業所
- 東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）
- ギガスケープデンキ株式会社
- 茨城トヨタ自動車株式会社
- 株式会社カスミ
- 日本郵政公社関東支社
- 茨城県警察本部
- 茨城県庁（中級事務）

（常磐短期大学）

- 株式会社常陽銀行
- 株式会社茨城銀行
- 国民生活金融公庫水戸支店
- 東京電力株式会社
- SMC株式会社
- ヤマト運輸株式会社関東支社
- 丸井グループ
- 東日本キヨスク株式会社
- 株式会社
日本レストランエンタプライズ
- 日本郵政公社関東支社
- 栃木県庁（行政事務）



インタビュー

茨城ゴールデンゴールズ入団をステップに！

茨城ゴールデンゴールズ／入団テスト合格

齋藤 由以さん 国際学部・国際ビジネス学科4年 硬式野球部所属

入 団テストには、全国から約60名の入団希望者が集まりました。合格者は、その中で10名くらい。だから、入団が決まったときは本当に嬉しかったです。最後の面接で萩本欽一監督に、茨城ゴールデンゴールズでプレイしたいという自分の熱意を伝えられたのが良かったと思います。早くレギュラーポジションを獲得して、次のステップに進みたいです。最終的に目指すのは、やっぱりプロ野球です。

私が常磐大学に入学を決めたのも、プロ野球の道に進みたかったから。ちょうど高校3年生のときに、当

時は常磐大学野球部に所属していた、小野寺力投手と久保田智之投手がドラフトで指名されたんです。だから、常磐大学の野球部で頑張れば、自分もプロ野球選手になれるんじゃないかって（笑）。

常磐大学の野球部では、いろいろなことを学びました。他の大学だったら野球中心の生活だったと思いますが、常磐大学ではしっかり授業に出席して単位を取らなければならない。練習と勉強を両立させるのは大変でしたが、社会人となるための大切なことが身につきました。お世話になった先生方に感謝しています。

【2007年春季休業中(2月～3月)に実施する主な工事について】

A棟地下1階改修工事	旧卓球室からミュージアム収蔵庫及び動物飼育室に改修します。
B棟106・206教室内装修繕工事 ピアノ練習室棟(青十角)改修工事	床をタイルカーペットにし、壁面の塗り直し作業を行います。 内外装を塗り直し、各部屋に空調設備を入れます。
L棟改修工事(202教室)	L棟202教室を「キャリア教養演習室」に改修します。
N棟改修工事(204・205教室)	改修後に現在A棟1階にあるピアノ練習室及びレッスン室が移動してきます。
N棟・N棟プラザ照明増設工事	N棟内の廊下照明・N棟プラザ内の照明を明るくします。
A棟・B棟・D棟・N棟WC修繕工事	トイレの床の洗浄作業及びトイレ内の床塩ビシートの補修作業等を行います。
D棟1階身障者用WC設置工事	1階に身障者用トイレを設置します。
UV棟バリアフリー関連工事	UV棟自動ドア設置・2階トイレ手摺設置・正門歩道側手摺設置などを行います。
C棟東側通路整備工事	大学側から幼稚園への急な坂道を緩やかにして歩車道分離化を行います。
S・T棟前掲示板増設工事	T棟学生支援センター前に掲示板を増設します。

*工事期間中は、何かとご不便をおかけすると思いますが、より良い環境作りのために、ご理解とご協力をお願いいたします。

卒業生センター便り

常磐大学高等学校2002年度卒業生
ホームカミングデー開催報告

2007年2月3日14時から、常磐大学同窓会館において、常磐大学高等学校が共学になり初めての卒業生を対象としたホームカミングデーを開催しました。卒業生40名、現・旧教員15名の計55名の方々にご参加いただきました。



伊藤先生の進行の下、チャイムを合図に、浅岡校長先生から高校の現況報告を含めた挨拶、山岡先生の挨拶の後、石川教頭先生の乾杯のご発声で懇親パーティーがスタートしました。途中卒業式の映像や共学一期生の映っている学校紹介ビデオを流したり、参加者からの近況報告を行うなど、卒業生・教員ともに再会を喜び、親交を深めました。会場には歴代の制服のミニチュアが花をそえ、高校時代の思い出話も盛り上がります。最後は全員で校歌を歌って、坪坂教頭先生が挨拶。約2時間、終始アットホームな雰囲気の中、盛会のうちにチャイムと共に閉会しました。「先生や友達と会えて、とても楽しかった」、「もっと時間が長くていいのに」といった感想もいただきました。閉会後は、諸澤みよ記念館の見学や、高校の見学も行われました。

また、近日同窓会を同窓会館を使って予定するクラスも出ました。

卒業生の皆さんへ

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは伝統ある常磐を巣立ち、この春から新しい社会に飛び立ちます。希望に胸を膨らませる人、戸惑いや不安を持つ人等、様々でしょう。十人十色と言われるように、それぞれに歩む人生も違います。しかし、常磐を巣立つとはいえ、常磐と離れるわけではありません。

卒業生センターでは、皆さんが卒業してからも、いろいろな支援ができればと考えています。高校近くの「同窓会館」は皆さんに広く開放した施設です。クラス・ゼミ・クラブ単位等、様々な規模での会合にご利用いただけます。将来、同窓会館で旧友・旧師と常磐を振り返ってみてはいかがでしょうか。卒業生の皆さんとは、これからも長いお付き合いになります。どうぞよろしくお祈りします。

常磐で学んだという誇りを持ち、未来を創造する力とし、それぞれの人生を羽ばたいてほしいと思います。

◎お問い合わせ先

〒310-0036 茨城県水戸市新荘1-7-26
学校法人常磐大学 卒業生センター
TEL&FAX/029-231-8162
事務取扱時間/平日9:00~17:00



編集後記



今年は暖冬でキャンパスの花々も例年より早く咲き始めています。過ごしやすい冬ではありましたが、地球温暖化の影響が懸念されます。やはり人間には、より良い環境が必要です。常磐大学・常磐短期大学では学生の皆さんにより良い環境を提供するため「学生生活満足度調査」を実施しました。現在、具体的な回答を皆さんにお見せできるよう取り組んでいます。